

2025年(令和7年)1月17日(金曜日)



日立ソリューションズ・クリエイト

南 章一 社長



国内のIT需要はDXの注目度が高く2桁成長している。当社は日立製作所と日立ソリューションズと連携して進めるS

つを重点事業として掲げ取り組んできた。各事業領域ともに成果が出始めてきている。

情報システムをクラウドに移行する需要は旺盛で、SI事業はシステム

の領域はHRの手応えを感じている。独自のノウハウを外販して顧客企業が抱える人財不足を支援したいと考えている。

Iと、独自に展開するソリューションサービス

のモダナイゼーション(近代化)案件が好調に推移した。ペイメント

「従業員エンゲージメント」計画がスタートする。重点事業に新たな領域を取り入れ、日立グループ

25年度は次期中期経営計画がスタートする。重点事業に新たな領域を取り入れ、日立グループのデジタル基盤「ルマード」事業の成長に貢献していく。当社

「モダナイゼーション」「セキュリティソリューション」の五

「サプライチェーンイノベーション」「ペイメントイノベーション」の五

生成AI活用で手応え

顧客企業の課題解決へ展開

「サプライチェーンイノベーション」「ペイメントイノベーション」の五

「モダナイゼーション」「セキュリティソリューション」の五

の管理の煩雑さをなくすだけでなくペーパーレス化にも貢献できる。

要望を取り入れながら展開を強化したい。

展開を加速させる。日立ソリューションズグループで推進するSX(サステナビリティ)トランスフォーメーションも強化する。昨年

は、昨年9月に電子タクトシートサービスを開始。紙のタクトシート

の活用も始めた。日立グループの共通基盤のほかに、当社で使える独自基盤も用意し社内活用を本格化。社内

約300件のアイデアが発想され15件のアイデアが受賞した。事業活動の芽が出てきているため、この流れを止めずに進めていきたい。

グループと連携を強化するとともに、当社の強みでもあるセキュリティトレーニングなどの上流コンサルティングを伸ばしながら下流まで総合的

化を図るとともに開発プロセスにも適用し検証を進めている。社内実践で

顧客企業が抱える人財不足を支援したいと考えている。